

中島光子さんの ICA2018 参加報告



2018.6.4 から 8 までドイツ・ベルリンで開催された ICA(International Congress of Actuaries:国際アクチュアリー大会)2018 に参加しました。私の発表は、” On discount rates in valuing defined benefit plan obligation” というタイトルで、6/8 午後の PENSIONS 14: Aspects of Retirement というセッションの中で行いました。セッションの進行役は Alexander Bohnert という大学の先生で、他の発表者はスペイン、ドイツ、ハンガリー出身の方々でした。本稿は、私の発表内容と ICA2018Berlin の報告です。

発表までのプロセス

- Abstract 提出期限 2017.7.31 (2017.7.30 提出)
- 選考結果通知 2017.10 月ごろ (2017.10.20 メールで連絡)
- 暫定成果物の提出 2018.1.31 (2018.1.30 提出)
- プレゼン資料の作成ひな形と注意事項の案内 2018.2 月初旬
- 1 回目のプレゼン資料等の提出締め切り 2018.4.6 (2018.4.5 論文とプレゼン資料提出)
- 修正締め切り 2018.5.15 (2018.5.15 最終版のプレゼン資料提出)
- 最終締め切り 2018.5.31

Abstract 提出とともに日本年金数理人会に派遣の申し込みも行いました。Abstract は 8 月ぐらいまでは更新可能 (ICA 事務局も更新推奨) で微調整をしました。プレゼン資料等の提出締め切りは、Speaker 宛ての案内では事前に HP で載せるから 2018.5.15 が最終締め切りとされていましたが、5 月の最終週に再度 5/31 が締め切りとして案内され、実際には PPT 資料がアップされていない話し手もいました。本当は自由度があるのかもしれませんが。私は英語での論文作成もプレゼンも初めてだったので、締め切り前は特に大変でした。逆に締め切りがあったから、何とか形にできたと思います。

1. 発表の背景

DB 制度は財政運営において、その給付債務を数理債務と最低積立基準額でとらえ、会計上は PBO を算定します。また、これらの数値について、人事部が財政運営関連、財務部が PBO を扱っているため、企業にとっては DB の制度運営は複雑で、理解と意思決定に時間がかかり、給付債務の算定コストもかかるものになります。DC 移行が増加する要因の一つに DB 制度を運営する複雑さがあるのではないのでしょうか。

目的が違うから 3 つの評価があるわけですが、「給付を支払う」ことが DB 制度の役目なので、DB の債務を一つの評価にまとめ、制度運営をシンプルにできれば、企業がその従業員に対する退職給付として DB 制度を選好するようになるのではないかと考えました。そこで割引率はイールドカーブに揃え、給付債務の評価を PBO に統一することを提案し、DB 制度の例に対して計算し影響を見るという形で考えをまとめました。論文では掛金も退職給付費用に揃えることも提案・検証しましたが、発表では時間制約等があるため、給付債務を PBO に揃えることまでを提案し、モデル計算も給付債務の変化についての結果の提示を行いました。

長く年金の実務を行ってきましたが、このような発表はしたことが無かったので、やってみようと思ったのが応募した理由です。幸いなことに、社内で理解・協力を得られ、業務として時間も貰いながら準備することができました。最初の Abstract は 300 語以内で比較的書きやすかったのですが、論文・プレゼン資料作成は苦勞しました。まず論文を日本語でまとめてから、グーグル翻訳を利用しながら英語に変えていきました。日本語でもなかなかまとまらず、何度も書き直し、またプレゼンを意識して構成しなおすなど、最終の英語論文の形になるのに時間がかかりました。

読み原稿は、英語論文を土台にできると考えていたのですが、読み言葉と書き言葉では違うので、英語論文で書いた言葉を元に読み言葉になるよう再度書きました。実は、現地に入ってから、読み原稿は書き直しました。社内・社外（数理人会）からアドバイスを貰いながら進め、プレゼンの予行練習を数理人会で行ってくださったのですが、そこでも色々ご指摘をいただいて何とか形にできました。

2. ICA 参加

① 概況

とにかく大きな大会で、大勢のアクチュアリーがいてごった返していました（参加登録は約 2,700 名）。2022 年シドニーの後に、ICA2026 が東京開催されるせいか、日本人も約 70 名参加していました。分野ごとの研究発表が大量に行われましたが、1 日 1 回は全員参加するようなセッションがあり、イベント（パーティーとかフィールドトリップ）も多くありました。ネパール、ガーナといったアジア・アフリカからの参加者も目立ちました。

6/4 の最初のセッションは全員参加で大会開始のセレモニーでした。バンドが「アクチュアリーようこそ！」という歌を演奏し、ちょっと驚きました。他の全員参加のセッションでは AI、ビッグデータ、低金利と長寿リスクなどの話題に対し、プレゼンテーションがあり、その後でアクチュアリーは何ができるか/何をすべきかをパネルディスカッションする形が多かったです。「モビリティ」がテーマのセッションで、グローバル化が進む中で年金もグローバルに通算できるようにする必要がある、という話が興味深かったです。



② イベント

パーティーが3つ会期中に開催され、課外活動も複数の「Field trip」または複数のクラシカルな会場での講演という選択肢があり、イベントが充実していました。

大会前日 6/3 の夜 : Welcome Event “Gauss Meets Humbolt” : 自然博物館でパーティー



6/5 の午後 : Field trip “Berlin by Bus and Boat” : ベルリン市内へバスツアーと遊覧船

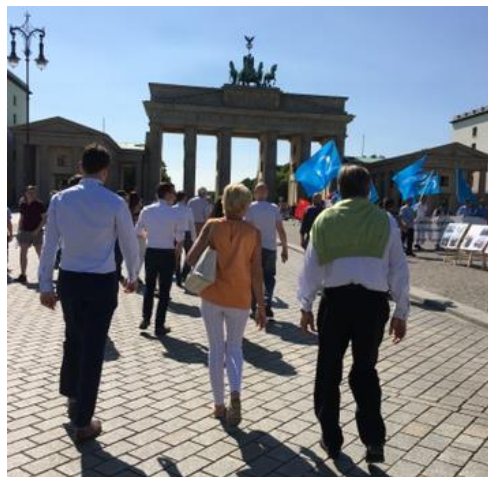


(ドイツのアクチュアリー、ブリジットさんと)

6/5 の夜 : Garden party : 会場ホテルでのガーデンパーティー



6/7 の午後 : Field trip “Jewish heritage Tour” : ベルリン市内のユダヤ人文化遺産ツアー



6/7 の夜 : Farewell Event “Traditional Funfair” : 市内よりの建物でベルリンの伝統的な「遊園地」パーティー



私は翌日にプレゼンを控えていたので、そんなには楽しめず・・・。

② IACA の朝ミーティング

ウェルカムパーティーの前にダイバーシティに関するセッションがあり、各テーブルでディスカッションする機会がありました。この時に顔見知りになり、ガーデンパーティーで話をしたのが Sherry Chan さんです。Sherry さんはニューヨーク市の公務員年金のチーフアクチュアリーをしている方です。

彼女が明朝 6 時半からブレックファーストミーティングをやるから来ない？と誘ってくれたので、IACA の朝ミーティングに参加しました。Sherry さんは優秀な若手アクチュアリーに贈られる賞を受賞し、その受賞記念スピーチも聞くことができました。彼女は日本のリスク分担年金に興味を持っていて、この朝食会の日にあった、吉田さんのリスク分担型年金のプレゼンを聞いていらっしやいました。残念ながら水曜日で帰ってしまわれたのですが、11 月には Tokyo に来るそうなので、また会えればと考えています。



(真ん中が Sherry さん、右が Tonya さん (2020 年の IAA 会長予定の方です。))

他の写真



(IAA 会長の吉村さん)



(IAA 前会長の Tom Terry さん)

④ 発表概要



私の発表は、以下のように進めました（プレゼン部分は VICA で視聴可能です）。

- 自己紹介を兼ねて、東京で開催されるオリンピック 2020、IAA C&C ミーティング 2019 および ICA2026 の宣伝
- 日本の年金ビジネスの概要（信託銀行や保険会社が、カストディ、記録業務や投資業務とともに数理業務も提供していること）の説明や、一つの DB 制度に 3 つの債務評価があり、企業は二つの部署（人事部と財務部）で別々に取り扱っていて、運営が複雑になっていることの説明
- 提案（DB 制度の割引率を一つに統一し、給付債務評価を PBO で統一する）
- 今の割引率設定の問題点
- モデル DB 制度の計算結果
- 結論として、PBO に統一することは可能そうだが、実現するための複数の考慮すべき点の説明

質疑応答では、ドイツのアクチュアリー Alf Gohdes さんから「面白いアイデアだと思うが、日本のアクチュアリーから賛同は得られそうか？」という質問がありました。年金数理人会でプレゼン練習の際に、「単純すぎる」、「アクチュアリーの所属先が大きく変化するのではないか」という指摘を受けていたので、「単純化しすぎている面もあるので、ちょっと分からない」と答えました。同じ枠でプレゼンをしたスペインの方からは、終了後に「すごく良い考えだと思う」と言われ、嬉しかったです。



(左から Alexander さん (司会)、ブダペストの Peter さん、中島、スペインの Inaki さん)

3. 終わりに

自己の意見をプレゼンするのも初めてで、英語で！国際会議で！なぜやろうと思ったのかと後悔することもありましたが、論文、プレゼン資料を作成し、読み上げ原稿を作り、プレゼンテーションしたことの全てがとても貴重な経験になりました。サポートしてくださった方々、プレゼン練習でご協力くださった方々や査読を引き受けてくださった方々、本当にありがとうございました。また、DB 決算の忙しいなか、丸まる一週間ドイツに送り出してくださいました。また、DB 決算の忙しいなか、丸まる一週間ドイツに送り出してくださいました。また、DB 決算の忙しいなか、丸まる一週間ドイツに送り出してくださいました。また、DB 決算の忙しいなか、丸まる一週間ドイツに送り出してくださいました。

ICAに参加して、国際社会において、どこのアクチュアリーも低金利・高齢化、ダイバーシティなど同じような問題に向き合っていることが分かりました。また女性アクチュアリーが多く活躍していることを実感し、刺激になりました。

今回の経験は、通常の業務ではなかなか得られない貴重なものでした。若手の会員の方も、経験を積まれた方にも、このような大会への参加をお勧めします。私自身もまだ考えたいテーマがあるので、また整理しながら折を見て、挑戦していきたいです。

昨秋に Abstract の受入通知が来てから論文にかかりきりになっていた私を支えてくれた夫と「論文書いたの？」が合言葉になっていた娘達、家族に感謝します。最後に、このような貴重な機会を与えてくださった日本年金数理人会に深く御礼申し上げます。

以 上